

三十一センチの思いやり

高崎市立豊岡中学校

三年 須藤 胡羽

三十一センチ。これは、去年私が切った髪の毛の長さです。皆さんは、「ヘアドネーション」という言葉を知っていますか？ヘアドネーションとは、病気や事故で髪を失った子供たちのために寄付された髪で医療用ウィッグをつくり、それを無償で提供する活動のことです。私は去年、このヘアドネーションをしました。

きっかけは、小学生の頃に図書の先生から言われた一言です。

「胡羽ちゃん。髪長いね。ヘアドネーションに向いているね。」

最近ヘアドネーションをしたという図書の先生から、「髪がつなぐ物語」という本をすすめてもらいました。その本にはヘアドネーションまでの過程、その後、ウ

ィッグを受け取った子供の感想など沢山のことが書かれています。ただでさえ病気で辛い思いをしているのに、髪がなくなるという悲しみも抱えながら闘病生活を送っています。そんな子供たちがウィッグを受け取ることです。少しでも前向きな気持ちになれる活動だと知り、私も力になりたいと思いました。ですが、いざ寄付したいと思っても私の髪はまだまだ足りません。寄付は三十一センチからすることができます。私はそこから三年間、綺麗な髪を保つために毎日ケアを頑張

り、ようやく七十センチほどの長さになりました。美容室で切った髪を丁寧に包装し、私のこの髪の毛でどこかの病気で苦しむ子供が一瞬でもその苦しきから解放されてほしい、そんな思いをのせてポストに投函しました。

時々、「ウィッグをつけたことで、病気がよくなるわけではない」とヘアドネーションを非難する声を耳にすることもあります。ですが、ウィッグをつけることで笑顔になる子供たちが沢山いて、生きる力に繋がっています。その子を支えている周りの人たちにも笑顔

が増えます。そういった現状を本を通して知ることができたので、ヘアドネーションには大きな意味があると思っています。

「髪がたなぐ物語」の中に、日本でヘアドネーションを始めた美容師さんのこんな言葉があります。

「理想はね、必ずしもウィッグが必要ない世の中が来ることなんだ。」

髪がなくても、周りと違うところがあっても、偏見なく生きやすい世の中になってほしいとこの言葉から考えさせられました。近年では多様性のある社会の実現がされてきていて、男性でもヘアドネーションをする人がいたり少しずつ偏見の目がなくなってきました。また、髪を切らないヘアドネーションと言って、ヘアドネーション協会から販売されているシャンプーやリンスを買うことで間接的に支援できるというものもあります。私のこの発表を通して、皆さんが興味を持ってそんな優しい輪が広がってほしいです。

日常の中でも、相手を思いやる心を持って困っている人がいたら手を差し伸べる。それが物を拾うや、何

かを貸したり、元気がない時に声をかけたりするなど小さなことでも、相手を笑顔にできる行動を私は続けていきたいです。一日一善。私はこれを心がけて生活しています。見返りを求めず誰かのために行動すること。みんなが思いやりの心を持って生活していけば、その輪が広がっていけば、笑顔になる人が増えるのではないのでしょうか。私はまた、ヘアドネーションに向けて今も髪を伸ばしています。次は、貴重なロングヘアのウィッグができる五十センチに挑戦しようと思っています。長い道のりになりそうですが、幸運のウィッグを届けるために、毎日心を込めて髪のカケアをしていきたいです。私の三十一センチの思いやりが、誰かを笑顔にできる。そう信じて。